

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	67人	算数	67人	理科	67人	質問紙	67人
第5学年	国語	50人	算数	50人	理科	50人	質問紙	51人

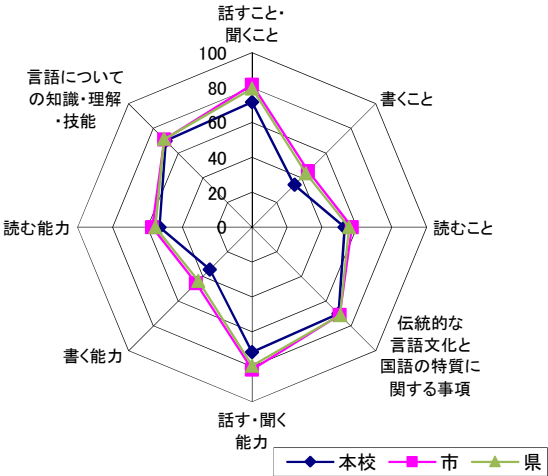
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	71.6	81.6	79.4
	書くこと	34.3	45.4	43.6
	読むこと	53.0	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	71.6	81.6	79.4
	書く能力	34.3	45.4	43.6
	読む能力	53.0	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	70.0	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

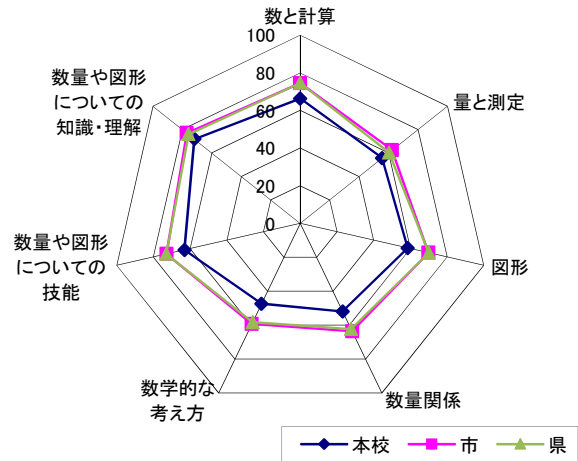
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●「理由を挙げながら筋道を立てて話す」問題の平均正答率は71.6%で、県の平均正答率を8.3ポイント下回った。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する」問題の平均正答率は62.7%で、県の平均正答率を8.0ポイント下回った。	○授業の中で、発言の仕方・話し方について具体例やポイントを示しながら、話すことに慣れさせていく。 ●どんな発言でも安心して述べられるように、お互いに聞き合える学級の雰囲気作りを普段から心掛ける。
書くこと	●「メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる」問題の平均正答率は17.9%で、県の平均正答率を9.0ポイント下回った。無解答率は25.4%で、高い割合を示している。 ●「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」問題の平均正答率は20.9%で、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。無解答率は38.8%で、高い割合を示している。	○「10分間ミニ作文ワーク」を朝の学習で活用して取り組ませたり、宿題として出したりすることで、書くことに対する習慣化を図る。 ●国語のみならず、各教科の中でも自分の考えを書く活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせる。
読むこと	○「叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読む」問題の平均正答率は56.7%で、県の平均正答率を0.7ポイント上回り、概ね県平均レベルである。 ●「中心となる語や文を捉えて読む」問題の平均正答率は49.3%で、県の平均正答率を7.6ポイント下回った。 ●「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」問題の平均正答率は52.2%で、県の平均正答率を6.1ポイント下回った。	●物語文を読むとき、登場人物の気持ちを考えるだけでなく、叙述に従って、どんな性格か物語の中でどのような役割なのかなどを考えられるよう指導を工夫する。 ●説明文の読み取りをするとき、段落ごとの大切な言葉を確認し、段落相互の関係を捉えることを意識した指導を心掛けていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字の読み」の平均正答率は83.6%で、県の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ○「漢字の書き」の平均正答率は75.1%で、県の平均正答率を2.2ポイント上回っている。 ●「国語辞典の使い方」の問題の平均正答率は56.7%で、県の平均正答率を13.6ポイント下回った。	●漢字練習に繰り返し取り組ませるとともに、前学年の漢字も折に触れて練習できるよう、家庭学習や朝の学習などの工夫をする。 ●普段の授業や自主学習の中で、国語辞典を活用した学習を多く取り入れ、使い方を指導するとともに、自分で調べて分かる楽しさを体験させていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.4	74.5	74.6
	量と測定	55.6	62.4	60.4
	図形	58.6	69.9	70.1
	数量関係	51.9	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	47.4	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	63.1	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	71.9	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

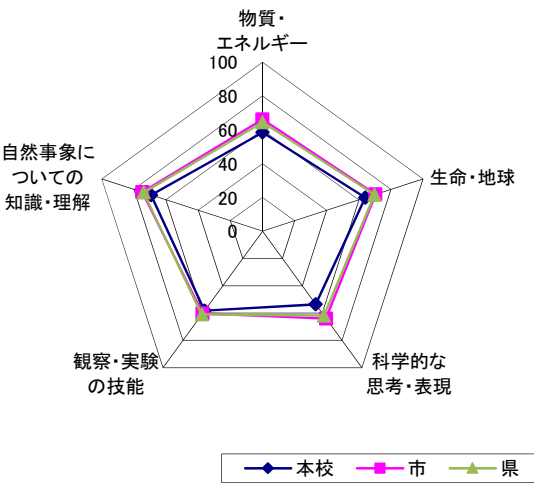
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●「基準量よりも比較量の方が大きい場面では何倍かを求める」問題の平均正答率は53.7%で、県の平均正答率を19.8ポイント下回った。 ●「余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる」問題の平均正答率は46.3%で、県の平均正答率を17.7ポイント下回った。	・「何倍」「半径」等の算数用語の意味が確実に理解できるよう指導する。 ・図のみで判断するのではなく、問題文をよく読んだ上で、問題文に出てきた数と求める値の関係性について、図と関連させて考えられるよう指導する。
量と測定	○「木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ」問題の平均正答率は91.0%で、県の平均正答率を4.7ポイント上回った。 ●「はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求める」問題の平均正答率は44.8%で、県の平均正答率を10.1ポイント下回った。 ●「ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める」問題の平均正答率は26.9%で、県の平均正答率を9.8ポイント下回った。	・1目盛りの数値を意識させながら、はかりを読む問題を繰り返し練習する。 ・日常生活と関連付けて、時刻や時間の問題に繰り返し取り組ませる。
図形	●「箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ」問題の平均正答率は34.3%で、県の平均正答率を17.6ポイント下回った。 ●「与えられた1辺の続きをかいて正三角形を完成させる」問題の平均正答率は61.2%で、県の平均正答率を12.6ポイント下回った。 ●図形の領域の平均正答率は58.6%で、県の平均正答率を11.5ポイント下回った。	・「何倍」「半径」等の算数用語の意味を、確実に理解できるよう指導する。 ・作図の方法について、ミニテスト等により確認する機会を設けたり、教室に掲示したりする。
数量関係	●「未知の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶ」問題の平均正答率は68.7%で、県の平均正答率を15.0ポイント下回った。 ●「棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する」問題の平均正答率は20.9%で、県の平均正答率を10.3ポイント下回った。また、記述式であるこの問題の無回答率は22.4%で県の平均正答率よりも9.4ポイント高い。	・普段の授業において、問題文の中のポイントとなる数値や単位等に印をつける習慣を身に付けさせる。 ・問題文をよみ、数量関係を図にかいて表す練習や、言葉・文章で表す練習を繰り返し行う。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.4	66.1	64.4
	生命・地球	63.9	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	53.6	64.1	61.9
	観察・実験の技能	58.2	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	69.3	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○物の重さを比べる道具の名称が「天秤」であることを答える問題の平均正答率は95.5%で、県の平均正答率を11.0ポイント上回った。 ●「豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する」問題の平均正答率は28.4%で、県の平均正答率を18.2ポイント下回った。 ●「明かりがつくつなぎ方を推測する」問題の平均正答率は44.8%で、県の平均正答率を8.8ポイント下回った。 ●「実験結果からゴムをねじる回数を推測する」問題の平均正答率は61.2%で、県の平均正答率を6.8ポイント下回った。	・授業の中に、実験結果を表や図にまとめる作業を多く取り入れて、練習をしていく。 ・結果を読み取る力をつけるために、図や表に必要なことを書き込む指導を行っていく。 ・実験結果を表す表と図を関連付けて考察したり推測したりすることが苦手な児童が多いため、なぜそうなったのかの根拠を明確に示し、確実な知識を身に付けることができるようにする。
生命・地球	○虫眼鏡の適切な使い方についての問題の平均正答率は55.2%で、県の平均正答率を4.3ポイント上回った。 ●「昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する」問題の平均正答率は53.7%で、県の平均正答率を11.4ポイント下回った。 ●「記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する」問題の平均正答率は40.3%で、県の平均正答率を8.4ポイント下回った。 ●「昆虫の成虫がたまごをうむ場所の理由を説明する」問題の平均正答率は70.1%で、県の平均正答率を10.0ポイント下回った。 ●「温度計の適切な操作方法が分かる」問題の平均正答率は59.7%で、県の平均正答率を9.7ポイント下回った。	・結果から考察し文章化する力を身に付けさせるために、考えるための根拠となる情報を明確に示すようにする。 ・自然事象を日々の生活と関連付けて考えさせるようにし、事柄の起きる根拠や原因を自分の言葉で説明できる機会を設ける。 ・温度計の正しい使い方を日常生活の中で個別に指導していく。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

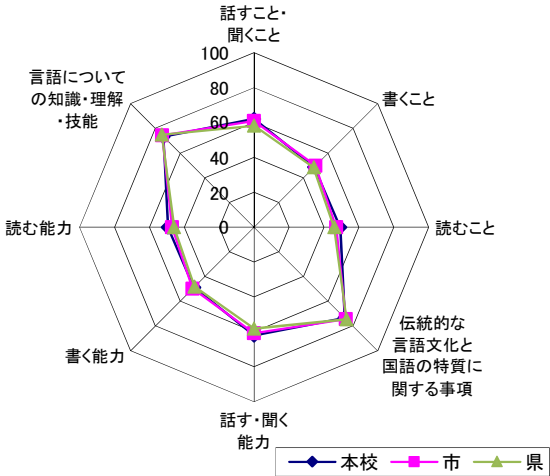
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でのきまりや約束を守っている」と回答した児童は97.0%で、県の肯定的回答を10.7ポイント上回った。
○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」と回答した児童は89.6%で、県の肯定的回答を9.9ポイント上回った。家庭で児童をよく認めていることが、肯定感を高めていると思われる。
○「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童は88.1%で、県の肯定的回答を8.9ポイント上回った。今後もよいところを認め伸ばしていく。
○「授業を集中して受けている」と回答した児童は97.0%で、県の肯定的回答を7.8ポイント上回った。今後もその姿勢が継続できるよう励ましながら支援していく。
○「理科の授業が好き」と回答した児童は92.5%、また「総合的な学習の時間の授業が好き」と回答した児童は91.0%と、いずれも県の肯定的回答を5.9ポイント上回っており、体験的な活動を好む傾向にあることが分かる。
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と回答した児童は58.2%で、県の肯定的回答を14.7ポイント下回った。学習に対して受け身の児童が多い。進んで取り組めるよう、学習に対する児童の興味や関心が高まるような工夫を考えていきたい。
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」と回答した児童は28.4%（県の肯定的回答を12.5ポイント下回る。）、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と回答した児童は62.7%（県の肯定的回答を14.2ポイント下回る。）、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」と回答した児童は31.3%（県の肯定的回答を18.0ポイント下回る。）と、いずれも情報機器活用能力が低い。インターネットを活用した授業の機会を増やし、効果的な活用の仕方を指導したり、家庭学習でインターネットなどを活用して調べている児童のノートを紹介し、学び方の参考にさせたりする。また、話題になっているニュースを学年の発達段階に応じて分かりやすく紹介・解説し、時事問題に関心をもたせる。
●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」と回答した児童は52.2%で、県の肯定的回答を18.6ポイント下回った。普段の授業の中で、何を振り返るのか内容を吟味し、ふり返る時間を確保することを継続して行っていく。
●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童は55.2%で、県の肯定的回答を13.5ポイント下回った。何を、いつ、どのようにやるかを具体的に考えさせて取り組ませる。
●「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した児童は47.8%で、県の肯定的回答を9.0ポイント下回った。また「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した児童は53.7%で、県の肯定的回答を10.9ポイント下回り、いずれも低い結果を示している。予習・復習の具体的な進め方を示し、自主学習として取り組ませて習慣化を図る。
●「国語が好き」と回答した児童は59.7%で、県の肯定的回答を8.0ポイント下回った。校内研修を通して国語の指導方法の充実を図り、児童が楽しく取り組めるような授業作りに努める。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	62.0	60.8	58.1
	書くこと	48.7	49.8	48.3
	読むこと	49.3	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	62.0	60.8	58.1
	書く能力	48.7	49.8	48.3
	読む能力	49.3	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	73.4	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

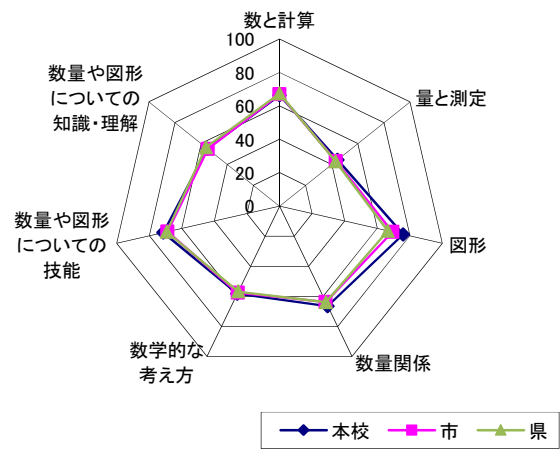
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す」問題では、正答率が86.0%と県の平均を11.4ポイント上回った。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」問題では、48.0%と県平均を4.8ポイント下回った。	・どの教科でも話し合いの場を意識的に設け、司会者の役割を数多く経験できるようにするとともに、意見のまとめ方や、進行の仕方について分かりやすくまとめた掲示物などを準備し常時可視化できるような環境を整えるようにする。
書くこと	○「インタビューの結果を基に、必要な内容を整理して書く」問題では、48.0%と県の平均を6.9ポイント上回った。また、「話し合いの中で意見の共通点を考えて書く」問題では、52.0%と県の平均を5.0ポイント上回った。 ●「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」問題は、70.0%と県の平均を6.1ポイント下回った。	・国語だけでなく、社会や理科などで表やグラフなどの資料からどんなことが読み取れるか説明するために必要な資料を選ぶ活動を積極的に授業に取り入れていく。
読むこと	○「中心となる語や文を捉えて読む」問題では、正答率が26.0%と県平均を7.1ポイント上回った。また、「登場人物についての描写から心情を想像して読む」問題も正答率が58.0%で県平均を5.1ポイント上回った。「叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む」問題は県平均を1.6ポイント下回ったものの正答率は86.0%となっていて説明文・物語文とも「読む」力が付いてきている。	・今後も家庭学習などで繰り返し「読む」問題に触れさせ、長文を読む問題に慣れていくようにする。また、物語の主人公の気持ちを叙述に沿って考えたり、想像したりする活動の機会を増やしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読む問題では、すべての問題において、正答率が80.0%、100.0%、98.0%といずれも県平均を8.3ポイント、2.4ポイント、1.5ポイント上回っている。また、ローマ字の読みも正答率86.0%と、県平均を11.1ポイント上回った。 ●漢字を書く問題では、すべての問題において、56.0%、42.0%、70.0%とそれぞれ4.4ポイント、17.9ポイント、0.2ポイント下回った。	・漢字やローマ字については、今後も引き続き正しい読み書きを身に付けるよう、繰り返しドリル学習やミニテスト、家庭学習を習慣化していく。特に、漢字を書くことに重点的に取り組ませる。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.4	66.9	67.4
	量と測定	44.4	43.2	43.0
	図形	76.0	69.4	66.5
	数量関係	66.5	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	58.2	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	71.4	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	55.3	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

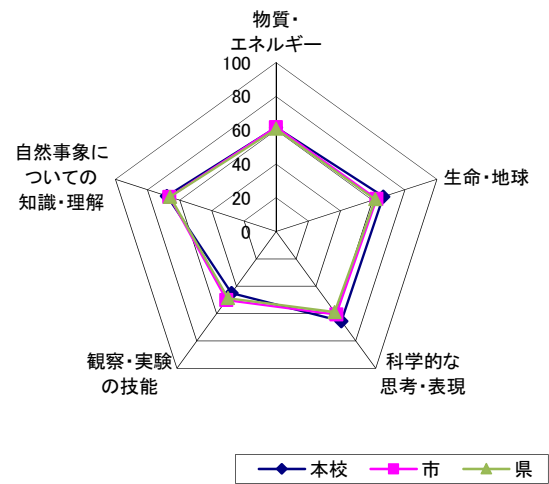
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「小数と整数の中から一番大きい数を選ぶ」問題の正答率は80.0%で、県の平均正答率を9.2ポイント上回った。 ●「数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す」問題の正答率は46.0%で、県の平均正答率を16.8ポイント下回った。また、「基準量よりも比較量の方が小さい場面では何倍かを求める」問題の正答率は36.0%で、県の平均正答率を13.0ポイント下回った。	・求められている答えは何なのか、また、基準量や比較量、何をどのように答えるのかなどは、問題文にアンダーラインを引かせるなどして意識させ、問題の見落としや読み誤りをなくすようにさせる。
量と測定	○「はがきのおよその面積を選ぶ」問題の正答率は40.0%で、県の平均正答率を4.3ポイント上回った。 ●「1㎡の正方形は1cmの正方形何枚分かを求める」問題の正答率は44.0%で、県の平均正答率を2.7ポイント下回った。	・1cm、1㎡を日常生活の中でイメージできるような場面を設け、面積や長さなど既習の単位について日常生活の中で意識できるようにさせる。
図形	○図形領域の平均正答率は76.0%で、県の平均正答率を9.5ポイント上回った。 ○「与えられた2辺の続きをかくて、平行四辺形を完成する」問題の正答率は70.0%で、県の平均正答率を10.9ポイント上回った。	・引き続き、図形についての基礎基本の学習を徹底する。また、実際に与えられた条件で作図したり、どの条件から作図できるかを考えさせたりする学習を繰り返していくことで、さらに学習内容の定着を図る。
数量関係	○「ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す」問題の正答率は68.0%で、県の平均正答率を7.1ポイント上回った。また、「二次元表の欄に当てはまる数を求める」問題の正答率は90.0%で、県の平均正答率より11.0ポイント上回った。 ●「買い物で、1つの式に表した考え方を完成させる」問題の正答率は42.0%で、県の平均正答率より10.3ポイント下回った。	・問題文から、分かっていることや求めることに印を付け、どの言葉からどんな式になるかを言語化させるなど、普段の授業でも意識して取り組ませる。 ・立式したら式の意味を説明する機会を増やしていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.6	61.7	60.7
	生命・地球	66.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	65.6	60.6	58.9
	観察・実験の技能	45.0	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	67.9	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	県の平均と比較し、ほぼ同程度の数値であり、まずまずの結果である。 ○「ポットを押したときに湯が出る理由が分かる」問題では、県の平均より10.6ポイント高い。 ○「盛んに泡を出しながら沸き立つことを「沸騰」と分かる」問題では、正答できた児童の割合が県の平均より11.5ポイント高い。 ○「電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係付ける」問題の正答率は、県の平均より10.6ポイント高い。 ●水の温度変化と体積の変化の関連性を選択する問題が県の平均より8.6ポイント低い。 ●湯気の正体が水であることや、泡が水蒸気であることを答える問題の正答率がともに低い。	・これまで同様に、実験を多く取り入れたり、丁寧に説明をしたりすることで、科学的な思考・表現の力がしっかりと身に付けられるようにしていく。 ・実験を行う上で、予想や仮説をしっかりと考えるようにしたり、どこをよく観察するのかポイントを抑えるようにしたりすることで、観察・実験の技能を高められるようにする。 ・科学的な事象を日常生活と結び付ける場面を意識的に取り入れるようにし、知識・理解が確実に身に付けられるようにする。
生命・地球	県の平均と比べて、5.1ポイント高い数値となっており良好な結果である。 ○「オオカマキリの図と同じ季節のカエルの様子が分かる」問題の正答率が高く、県の平均を17.4ポイント上回っている。また、「オオカマキリの図と同じ季節のヘチマの様子が分かる」問題の正答率も同様に高く、県の平均を12.4ポイント上回っている。 ○「コップの外側に水滴が付いた理由を説明する」記述式の問題では、県の平均を17.1ポイント上回っている。また、「ラップの内側に水滴が付いた理由を説明する」短答式の問題においても、県の平均を7.8ポイント上回っている。 ●「方位磁針の適切な操作方法が分かる」問題の正答率は、県の平均より6.2ポイント低い。	・生き物や植物のスケッチをしっかりとさせ、実際に栽培して観察する活動をしたことが今回の結果につながっていると思われる。今後も同様の活動をたくさん取り入れるようにし、よりよい結果となるように支援していく。 ・観察で使用する器具は、知識が定着することを狙って、使い方を教えるだけでなく、だれもが実際に手に触れて使う場面を作るようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」や「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています」において肯定的な回答をした児童の割合は90%を超えており、学級の人間関係など基盤がしっかりとできていることが分かった。

○「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」では、国語、社会、理科の教科において肯定的な回答をした児童の割合が高く、90%を超えている。児童は集中して授業に取り組んでおり、現状の授業の在り方に一定の効果が感じられる。

●「家で、学校の授業の予習をしている」で、肯定的な回答をした児童の割合は45.1%で、県の平均を12.0ポイント下回った。また、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」で、肯定的な回答をした児童の割合は52.9%で、県の平均を9.4ポイント下回った。家庭学習の習慣化を図るために、各種たよりや学習内容の紹介などを通して啓発を行いたい。なお、学力の低い児童において肯定的な回答をした児童がおり、努力していてもなかなか結果に結びつかない状況が感じられた。学習方法や内容を支援し、個々の学力向上につなげたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」では、肯定的な回答をした児童の割合が50%を下回っている。多くの児童に対してしっかりと自信をつけさせ、より意欲的に学習活動などに取り組めるようにし、全体的な学力向上につなげたい。

●「家の人と学習について話をしている」では、肯定的な回答をした児童の割合が、県の平均より13.7ポイント低い。学年だよりや懇談会などを有効に活用し、保護者に児童の学習に関心をもってもらえるようにしたい。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」では、肯定的な回答をした児童の割合は43.1%で、県の平均を19.3ポイント下回った。疑問をもち自分で調べる学習習慣が身に付くよう、日々指導を続けていく。また、学習に役立つインターネットや地図帳などといったツールの利便性や使用方法を教えることで、進んで調べることができるようにさせたい。

宇都宮市立西が岡小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語科を中心とし、自分の言葉で文章にまとめる指導の充実	・学校課題に基づき校内研修を行い、「書くこと」の指導事項である構成や記述に焦点を当てて指導方法を工夫する。 ・授業の最後に、学習したことを振り返る時間を確保し、本時で分かるようになったことやできるようになったことを文章で書く活動を多く取り入れる。	・5年生で「掲示物の内容に合う資料を選ぶ」設問の正答率は70.0%で、県の平均より6.1ポイント下回っている。また、4年生で「メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く」設問の正答率は20.9%で、県の平均より13.1ポイント下回っている。4年生の同じ設問の無回答率は38.8%で、県の平均より16.7ポイント高い。
算数：基礎的事項を確実に理解させる指導の充実	・特に正答率の低かった問題については、各学年で朝の学習や家庭学習などで繰り返し復習させる。 ・何倍かを求める問題で課題が見られるため、実際の生活の場面と関連させながら繰り返し問題に取り組ませる。	・「基準量よりも比較量の方が大きい(小さい)場面で何倍かを求める」問題では、県の平均より4年生で19.8ポイント、5年生で13.0ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」と回答している児童は、県の平均より、5年生で19.3ポイント、4年生で18.0ポイント下回っている。	自主的に学習に取り組む態度の育成	・地図帳に限らず、百科事典、図鑑、資料などを使った調べ学習を様々な教科で取り入れ、自分で調べて分かる楽しさを多く体感させることで、今後自分から進んで学習できるようにする。
「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答している児童は、県の平均より、5年生で9.4ポイント、4年生で10.0ポイント下回っている。	家庭学習の充実	・「リレー自主学習ノート」を作ることで、自主学習の活性化を図るとともに、友達の取り組みを参考にできるようにする。 ・12月の学校公開日や個人懇談で、各学級で取り組んでいる「リレー自主学習ノート」や、参考となる自主学習ノートのコピーを掲示し、保護者に紹介する。